

027
532
i

志をきく



027
532
1

愛知女子
第1275號
圖書

九四〇

齋

芭蕉心庵も世の門人多かる中
杉風も世にふる各々の御筆に
是れ城下なる下の句次も
あり其山風も常より人とな
りてと我らも世にふる各々の御筆
をのこらるるものにして

とみりあふのひは
水家梅園子残るは
いふ甲斐もなす乃平角
らしし乃平角あり

題

松風

何とあはれなく風あはれなる
あはれなく秋もを歩ゆゆ
元政ははみ家戯又秋更
たとみあはれく窓下入る月
鱈つ湖せまうらなきか
くさ乃松ふのまらち
芭蕉
重厚
平角
全
厚

相駕乃兒ふところ手さきり

重厚

あまめききく乳やあまきん

平角

子糸れきき〜火〜の花糸糸

全

暖簾ひろき直比須や新店

厚

いのちまは四十かこころ籠ま

全

湯漬のき〜紙やまい塩辛

角

う〜打乃唐紙ち〜む竹の隈

全

使せ〜〜〜〜〜〜〜〜〜

厚

三味線のお〜皮やあま月

全

小判ま〜〜〜〜〜〜〜〜

角

啄木鳥乃むかき枝を附〜

全

藤うち曲の庭の地あり〜

厚

陰陽師む〜の家よ〜〜〜

全

ひとり娘乃袖や笠あろ

角

船おろしあ〜〜〜〜支波改

全

な〜川乃ち〜〜〜乃声紙ふれ

厚

ついでそのと麦や小豆紙さー花紙
 南大門乃 鏡をい川さ紙
 冬比月ほーも老乃 紙をうく
 多〜ひり 紙紙いこれ紙汁
 紙史もあ〜七三の 名乃 通り
 茶乃 海や香を人よ 教紙
 箱中紙大と長紙又尾を〜七
 紙津と除ふ紙のうら

原 角 原 角 原 角 原

三つ々々下間〜紙さー 観音
 紙乃 大これ〜紙やいあり
 塩舌の 片身をつ〜いあり〜紙
 吟呼く〜紙と紙紙石白
 炭紙又古風をつ〜紙粉挽頃
 七く紙紙〜紙子も紙あり

原 角 原 角 原 角

附録

宗鑑のまゝに録し置る

龍山公

業平乃規のまゝに録す

光廣卿

頼朝のまゝに録す

源朝経

中若の平あし袖やけり花

季吟

義朝のまゝに録す

芭蕉

と一仲乃麻さめの山月並

景徳も起え乃坐るうら七言歌

長嘯の墓もめく歌歌新し

系政のまゝに録す

其角

能因のまゝに録す

鬼貫

兼好のまゝに録す

支考

長春の親の名々事跡沙文

野坡

神農もあつた昔の酢味噌

許六

名肥のものよ松を煮たり

言水

昌隆の松は久し御代乃春

利重

宗長う寸白さう巨燧の家

伶く

顔田の亡魂もせほく富の

樗良

張良の六百自ら師をう那

荃村

伏庵の口切とまん 雨乃門

杏原

松成の蝶さく物さりまき

葵冬

船島の梅いりあ旦のよあまの那

二柳

赤人の一夜うりう雪とまん

白雄

陸奥の乃涼臺なりちや川梅

暁臺

貞室の秋とらうつせあ乃梅

太溪

鬼貫の爰白を感き火桶のち

斜川

實乃ちちちちちち田名あり

里川

又平の画をこのちちち火桶

三白

南部
鹽園

覺肥の夢ころろ也今初の雪 夜來
 幽詠は物ころろの行 行ころろ 其黒
 貫之乃交りてちるあころろ 棠翠
 音聲の幽冥ころろの海 英里
 さぬもりう聲聲ころろ田芥は 雪丹
 嵐雪う書のを解 夜ころろ 平角
 波辺のうめ喚くりり序を何 左琴
 忠堂の御書う——詠り目書り何木

福岡
 金田一

黒まや傘月あころろのかころろ山 竹牙
 家高の音もつ筋手鷹の経絡 此竹
 菊まむむのりりり秋乃を 葵文
 茂叙いす思ころろの蓮のむ 不流
 松風の夜ころろの明やま 五跡
 探幽やそのころろの草乃花 雪面
 石一の杖もふくろや出ろ意の 雪敷
 願莫々余波ころろのあま乃笛 葉舟

少平

秋素の露のまよふけり

八戸 執馬

西のつむぎもあまぬほ

家文

遍照のころものさしや苔乃さぬ

乙用

糖丸の墓のいりこけけけ山

毛内 里夕

盤桂の蓋もふくぬを雪乃雪

秋田 可史

後房乃世と蓮花実を花さる

酒田 又明

樂天のねとくひさしー雪の窓

庄内 以文

新波の扇乃きやけくー

如水

信言乃蚊きまよふ園角小

本吉 遊龜

長明のやわらと福もーくまり

秋夫

園友の本枯たきよゆへの那

栃木 尺樹

言水のい〜けきりや初茄子

東郡 袁丁

雲舟の馬とて〜北望安

成義

一蝶の愛〜〜〜〜復乃鳴

寸來

た〜〜〜素顔えせ〜秋の露

一成

夕霧の言乃あま〜や益巨燧

楚山

後實の采ぢきし一箇の月夜は

直哉

ハ寛の學ゆるし奴夕さく

萬葉

諱信の釣針さし川柳

松雨

勅女思案もたち夕中雀

甘谷

貞隆ららうまの麻子うれ

南華

重厚の家く乃花紙緋りり

泰里

さきのいてしも爰も小松曳

龜文

蝶丸さくろりむ乃あり哉

以明

義秀の酒もそゆは秋乃風

其常

山吹の化粧乃高飲うらさ

狭宇

瑞翁の細意た々々雲夜の

榮子

栢庭さくろりともさや

來舎

一休乃禪し花見しつみう

沂山

家持の鮎つれうしも去名字の

北雅

大もーうら舞衣を早けれど

春坡

小町さくろり蝶やけを市原時

血坊

洛
惺州

若州

師直う鳥帽子もりのまゝに初松魚

宗譜

正成う寛いね〜か〜可菊

重厚

元政うちちも〜糸瓜の形

全

利休いす〜うり〜時踊水

全

雀翁美乃かた〜三々〜以出羽乃酒田

あやみや玉笠乃森子や〜り丁自ふの

さ〜一及吉あり今〜をその本回氏

ま持〜一紙書うつれお〜集つ

く〜る〜な〜は〜その志〜り〜よ〜と〜あ〜て

き邊の友か支〜え〜〜〜

〜〜〜

あつみや玉志亭うして御家の
信奥より一紙をもちてな〜
後白紙こめて白くならせぬもの
食よりあつみや〜を蔵するに

とも成

御志葉羅もや新し轉り切こ

御紙やうらやをあらひし
つ良

三人の甲もあや御志葉 玉玉

奥より宛てた紙のや
紙乃味 玉志

元禄二年 晩夏末

夕こー二島城うろ先寺

之江之也根虎比の支本下圖

宗愨

象深乃うつてひる名難

重厚



